女性が輝く地域づくり

平成３１年１月２２日に、地域づくり実践講座を開催しました。今回は、長谷川 恵理子氏（野菜ソムリエ上級プロ）と今村 井子氏（子どもワクワク食堂実行委員会 委員長）のお二人にご講演いただきました。

事例発表Ⅰ

野菜で繋がる人と地域

野菜ソムリエ上級プロ

長谷川 恵理子氏

前橋市上細井町で野菜の生産農家をしています。元々農業者というのは、土地に根付いて地域の活性化や地域づくりの中心的役割を担っています。

■ 人に優しい栽培方法

農家の長男と結婚して、農業と関わりを持ちました。当時はしっかりと農薬をかけた予防農薬でしたが、安心安全で、子供たちが毎日ハウスや畑で遊べて、野菜を食べられる環境を作れないかと考えました。子供を育てる、人が来られる畑として、予防農薬から対処法に移行。現在は、年間を通して６０～８０品目の野菜を栽培しています。１００％無農薬は難しく、減農薬、低農薬で、持続性の高い農業生産方式の導入「エコファーマ」を取得して販売しています。

■ 地域とのつながりを大切に

作る人にも食べる人にも優しい畑として、野菜を通じて、畑や農業に関心を持ってもらう活動をしています。小学校のきゅうりハウス見学の受け入れや、近所の小学生と連携して、玉ねぎの植え付けと収穫体験。玉ねぎは学校給食に提供し、食育に繋げています。中学校の農業体験、農林高校のインターンシップ、農林大の農業体験なども受け入れています。畑には子供たちが集まってくるようになりました。一般の方にも来てほしいと、県の「食の現場公開事業」に登録しています。収穫体験や、野菜を使ったワークショップ、ハウスを使った農園紹介などを開催しています。

有機栽培、低農薬栽培、減農薬栽培を始めると、苦手な虫が増えたので、畑の中だけではなく「畑以外で農作業」をコンセプトに活動しています。農業は国の基幹になり、「野菜育ては人を育てることにつながる」と考えています。野菜を食べることも大切ですが、野菜を楽しむことも非常に大切です。楽しむことをメインに、野菜ソムリエの資格を取得して、和食アドバイザー、農村生活アドバイザー等として活動しています。

長谷川農園 収穫体験

■ 農園外の活動

1「コナストア～女性だからできること～」

新前橋駅前のお店「製麺所コナリエ」とコラボしたストアマルシェを、県の農業養成講座で知り合った女性農業者たちと始めました。現在では結婚式場や百貨店、温泉街、農園など場を広げて、活動を発信する場所になっています。それぞれ家の農園や、家庭、子育てもありますので、ＳＮＳでつながりを保ちつつ、情報交換やお互いの近況、イベントの告知なども発信をしています。農業者は、畑の中では一人です。同じ環境の仲間が頑張っているのを見るだけで、活力にできる。心強いグループになっています。

2「前橋マジョーラ」

マジョーラは前橋市内の女性農業者の団体で、それぞれの農産物や販売物の販売促進を目的として、研修や直売活動を行っています。年３回前橋駅前マルシェにも参加。また、ギャラリー前橋で、伝統野菜、伝統料理といった伝承活動なども行っています。都内のぐんまちゃん家では、農産物や農業のＰＲをしています。

3「農業女子プロジェクト」

農業女子ＰＪとは、２０１３年農林水産省が立ち上げたものです。国内の女性農業者と民間企業を繋ぎ、日々の生活や仕事、自然との関わりの中で培った知恵や様々な農産物を、民間企業の技術やノウハウ、アイデアと結びつけて、新たな商品やサービス、調理法を創造します。社会に広く情報発信し、農業で活動する女性の姿や女性の就労への関心を高めてもらう取組です。女性農業者、企業、教育機関が連携してプロジェクトを立ち上げています。群馬県内の女性農業者の方も多く参加していて、色々とコラボレーションしています。

■「畑以外で農作業」をする

野菜を売るということは、地域を発信することに繋がります。長谷川農園の野菜だけでは売れません。そこに、群馬県や前橋市、上細井地区などのバックグラウンドがあってこそ、野菜も売れますし、畑や農業に関心を持ってもらえるのです。販売促進と地域発信の相乗効果が、長谷川農園の目指す地域づくり、地域活性化の活動と考えています。一人でも長谷川農園と畑に、興味・関心を持った方がいたら、ぜひ足をお運びいただきたいと思っています。人がつながり、地域活性化につながります。ぜひ地域に戻られたら、地域の女性農業者の活動に目を止めていただき、応援していただければいいなと思います。

事例発表Ⅱ

子ども食堂でつくる地域の未来

～子どもも大人もひとりぼっちにしないために～

子どもワクワク食堂実行委員会 委員長

今村　井子氏（せいこ）

結婚を機に群馬へ来て１６年になりますが、それまでは神奈川県で１５年間教師をしていました。

皆さん、子ども食堂にどのようなイメージをお持ちでしょうか。子ども食堂は全国で２，０００箇所以上、群馬県では４０箇所に増えています。社会福祉法人や市民団体、保育園や教会、色々な団体が立ち上げ、色々な方の居場所になっている。多様な形の子ども食堂が出来ています。

■ 子ども食堂を始めるきっかけ

東日本大震災をきっかけに、地域で子どもを育てるためのＮＰＯを立ち上げたいと、安中ミニファミリーサポートセンターで子育て支援事業を始めて、悩み相談を受けるようになりました。

社会的関係性が薄い子ども達は学校の先生か、親しか出会いません。学校にいけなくなった弱った子どもの心を立て直してくれたのは、ＮＰＯに集う大人たちや地域の方々でした。親では見えない子どもの良さ、大丈夫だと言ってくれる大人たち。改めて地域の役割は大きいと感じました。同じ様な悩みを抱える方たちに何か出来ないかと、子ども食堂を始めるきっかけになりました。食でつながるって良いなと思い、東京でその地域にあった子ども食堂の立ち上げ方を学びました。